

家庭系ごみのさらなる減量施策について

1. 減量のポイント

(1) 分別の徹底

- ・可燃ごみには雑紙やプラスチック製容器包装の混入量が多く、これらの分別を徹底。

(2) リデュースの取組

- ・可燃ごみに占める割合が最も多く、分別排出の対象でない「生ごみ」の発生抑制や、自家処理の推進。

(3) リユースの取組

- ・分別排出の対象でない「布類」のリユースを推進。
- ・大型家具などのリユースの促進。

2. 減量施策の方向性(案)

【分別の徹底に向けた取組】

① 雑紙・プラスチック製容器包装対策

- ・分別しない理由などをアンケート調査により把握し、課題解決を図る。
- ・分別についての広報・啓発を強化。

② 低関心者の意識改革

- ・ごみ問題に関心を持てるような広報手法の検討・導入。

【リデュースの取組】

③ 生ごみの発生抑制対策

- ・「食べ残しもったいないキャンペーン」による啓発。
- ・エコクッキングの奨励。

④ 生ごみ水切りの推進

- ・生ごみ水切り用具の普及推進。

⑤ 生ごみ自家処理の推進

- ・堆肥化容器、電動生ごみ処理機の普及推進。
- ・乾燥生ごみの拠点回収により、間接的に自家処理を推進。
- ・地域における生ごみ堆肥化事業の推進。

【リユースの取組】

⑥ 布類対策

- ・古布・古着の拠点回収の利用率向上。拠点増設も検討。

⑦ 粗大ごみ対策

- ・リサイクル品提供事業の利用拡大。